

貝殻拾いから始まって

谷口 新

はじめに

長年貝殻を拾ってきては知らぬ間に紛失してしまうということを繰り返してきました。しかし日本海側でアオイガイを拾ったのをきっかけに拾うだけでなく調べることを始め、さらにそれまで見向きもしなかったウニ殻や人工物にまで興味を広げました。貝殻など自然の造形美や人のかかわりなど興味の趣くまま集めて調べて標本にして楽しんでいます。ただし学名などの表示は無し、親しみやすい飾りとしてのレイアウト、標本にしました。

こんなことしてます

レジ袋でもいいです、ビニール袋を持って浜辺に行つてぶらぶらします。貝殻など目についたものを拾います。持って帰って洗って乾燥して名称、由来などを調べて標本にします。ちょっと横にそれでテーマを伝統文化から食文化に移せば魚屋さんで売られている貝でも一調べできます。クリーニングする際そのものに適した洗剤の種類、洗浄方法や可能な限り自然に近い質感、光沢を保てる材料、劣化を防ぎ長期保存に耐えられる薬剤を模索します。



オオブンクを水にさらしています

標本の材料を海で見つけてきます。これはウニの仲間のオオブンクです。拾ってきたときは砂や海藻にまみれており特有の悪臭を放っています。これを一ヶ月ほど水にさらし、最後に台所用漂白剤で漂白します。思うように白くしてくれなかったり、まだまだ漂白剤の濃さや温度管理など課題を残しております。

このクリーニングの作業中に3割ほどが欠けるなどして失われます。入れ歯の洗浄剤の方がいいなどの話も聞きます。ちなみに貝殻のクリーニングにはトイレの洗浄剤を使ったりします。



漂白したオオブンクです

ブンク類は非常に脆いので海で見つけても家に持って帰る間に壊れてしまったという話をよく聞きます。漂白したときはさらに脆くなっているので標本にする前に質感を失わないようにつや消しラッカーを何度も吹いて強化(?)しています。

また乾燥に弱いアコヤガイやタイラギガイなどの貝殻はミツバチが作り出す蜜蝋が質感も失われず今のところ最適という結果を得ております。



魚屋で手に入れたアカニシガイです

標本の材料を魚屋さんで手に入れてきます。これはアカニシガイです。紫色が高貴な色とされる時代その紫色は磯の小さな貝、イボニシから集めたそうです。それをアカニシガイで実験してみました。

パープル腺という黄色い部分を取り出します。このパープル腺、紫外線に当たると濃い紫色に変色する性質があります。夏場の強い日差しの下だとみるみる紫色に変色していく過程が楽しめます。



アカニシガイのパープル腺で絹糸を染めました

この紫色で絹糸を染めてみました。とてもしっかりした濃い紫色に染まりました。水にさらしても全くといっていいほど色落ちしません。

しかしこの紫に変色したパープル腺は非常に臭い！頭痛がするほどの臭さです。手が臭くなります、家中臭くなります、近所中臭くなります。でもアカニシ自体安く手に入るので実験してみる価値あります。

いろいろなことがたくさんわかってきました

あの貝殻は拾っておくべきだったとか何でこんなもの拾ってきたのかとか後悔を重ねつつ、数が集まってくると自然にいろいろなことがわかってきました。貝などの生物はその地域の生態系など自然環境を教えてください。その造形美は数式で表せることやまたは貝の利用による伝統文化や娯楽にまでたどり着くことが出来ます。参考文献の少ないウニなどはわからないこといっぱいで見つけるとワクワクします。金属、陶器片、ガラスなど人工物は人の生活の歴史を考えさせてくれます。鉞物を探せば多くの場所に砂鉄があります、場所によっては石英の仲間なども普通に転がっています。

まだまだこれからです

波打ち際には貝殻、ウニ殻、甲殻類の殻、をはじめいろいろなものが打ち上げられています。最近目立つのが大量のペットボトルです。これらのゴミについても何か対策を考えないといけないようです。金属やプラスチックが台頭する以前、貝殻は陶器などと一緒深く人の生活に浸透していました。そのままの形で使われることは少なくなりましたがアワビやヤコウガイなど伝統工芸の螺鈿に使われたり同じく工芸に用いられる胡粉も貝殻の粉です。調べると身近に沢山の貝製品があります。日本海側と瀬戸内側では打ち上げられるものが違ってきます。季節によってもその日の天気や時刻によっても違ってきます。大荒れの海なんか最高ですが他人に迷惑を掛けることは絶対出来ません。それさえ気をつければまだまだ沢山のことを教えてもらえそうです。